Virtual Realityを用いた臨床型実習プログラムの構築と実践

医学部　教授　楫　靖

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの日常生活には長期間にわたってさまざまな制限がかかりました。医学部生の病院内での臨床実習にも制限が生じ、『質の高い教育をみんなに』という目標の達成が困難になると予想されました。そこで、IVR（Interventional Radiology）治療を行う血管撮影室での実習に変わる方法としてVirtual Realityシミュレータ（VR：Fig1）と血管内治療シミュレータ（VIST：Fig2）を活用したシミュレーション実習と解説講義を組み合わせた新たな臨床型実習プログラムを構築しました。このプログラム実施に取り組んでから３年が経過しました。メリットして病院エリア外でも質の高い実習が可能となり、2〜3人の少人数での実施によって共同手技の習得が促進され、チーム医療の重要性への理解も深まっています。将来の技術革新を見据えた貴重な体験とも言えます。学生は楽しみながら臨床を模擬体験でき、実習に対する満足度も高く評価されています。今後もより質の高い臨床実習の実現に向けて、本プログラムを継続・発展させていきます。

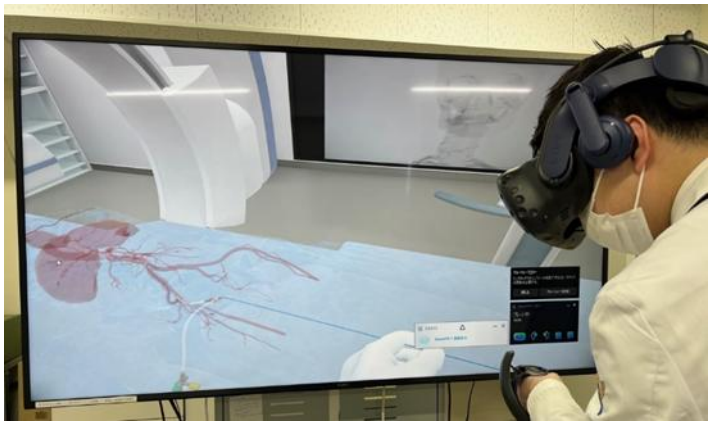

Fig1

Fig2